

平成27年度第2回柏市立図書館協議会会議録（視察報告）

1 開催日時

平成27年10月8日(木) 午前8時30分～午後4時55時

2 開催場所

市川市立中央図書館，墨田区立ひきふね図書館

3 出席者

(委員)

松本会長，井上副会長，山宮委員，中島委員，田川委員，川島委員，竹島委員，橘委員，田辺委員，白井委員，薄隅委員

(事務局)

藤江生涯学習部長，長妻図書館長，諏訪部副参事，利光副主幹，佐藤副主幹

4 目的

「柏市子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき，中学生・高校生を対象とした図書館サービス，いわゆるヤングアダルトサービスの充実を図るため，この事業の先進公共図書館を視察するとともに，あわせて，今年度の検討内容である「館内表示」について視察し，今後の見直し等の参考とするもの。

5 概要

(1) 市川市立中央図書館

施設・事業概要について，DVD上映，ヤングアダルトサービスについて説明を受けたあと，館内を見学した。

- ・中央図書館は，建物の中で「一般」と「こども(児童)」を分けた設計になっており，児童センターが「こどもとしょかん」に併設されている。
- ・市の発行物の中で，市川を知るためにお薦めするものを館内で販売している。
- ・市川市にゆかりのある著名な永井荷風，東山魁夷等の著作物や関連する資料を収集し公開している特別コレクションのコーナーがある。
- ・自動車図書館が2週間に1回運行され，市内全域に図書館サービスが行き渡るようになっている。
- ・図書館マナーの啓発として，標語を募集し，入賞作品によるブックカバーやティッシュを作成し，配布している。
- ・メインカウンターである貸出返却カウンターとは別に，大きく「？」マークを表示したレファレンスカウンターを独立させ，参考図書，行政資料，特別コレクションの近くに設置している。
- ・一般図書のコーナーでは，レファレンスライブラリーとポピュラーライブラリーと分かれている。ポピュラーライブラリーでは，多くの図書館で採用している日本十進分類法による配架ではなく，くらし，趣味，スポーツ，ビジネス等のテーマ別の書店に近い並び方を採用している。日本十進分類法によ

る配架をしているレファレンスライブラリーでは、旅行案内などポピュラーライブラリーに移動している分類部分については、細かく案内されている。

- ・閲覧席が多く、対象年齢や利用目的によって分けられている。
- ・保存書庫は開館当初 100 万冊収蔵として作られた。現在、年次計画により、集密書架を導入し、その結果、140 万冊くらい収蔵可能の予定。
- ・メインカウンターである貸出返却カウンターでは、混雑時には利用者がどのように並んだらよいかラインをフロアに表示し、利用者の導線を確認している。
- ・データベースによる閲覧が可能な参考図書等は、書架のスペース等も考慮して、積極的にデータベースによる閲覧に切り替えている。現行法規については、加除式のものを廃止し、データベースによる閲覧を進めている。
- ・ヤングアダルトコーナーの近くには、中学生・高校生専用に使できる部屋があり、扉を閉めると声がもれないようになっている。
- ・ヤングアダルトサービスでは、中学生・高校生が図書館にくるきっかけづくりとして、中学生・高校生を対象に年間キャラクターを募集し、図書館で発行する Young Adult 通信等で入賞したキャラクターを使用する、また、テーマをきめてポスター・イラスト展を実施する、中学生・高校生自身が薦める本のPOPを作成する等のイベントを企画している。

(2) 墨田区立ひきふね図書館

図書館概要について、DVD上映、ティーンズ（ヤングアダルト）サービスについて説明を受けたあと、館内を見学した。

- ・ひきふね図書館では年間 125 回のイベントを実施しているが、そのうちボランティアによる企画イベントが 53 回であり、参加者は年 3,000 人。
- ・市内の高齢者施設、障害者施設では、図書館の資料を貸出だけでなく、区民ボランティアによる本の読み聞かせ等が実施され、図書館に来られない方への図書館サービスが積極的に行われている。
- ・墨田区では「ヤングアダルト」という言葉を使用せず、「ティーンズ」という言葉を使用している。ティーンズサービス担当の役割は、ティーンズルームの整備、図書館ホームページのティーンズページの管理、ティーンズを対象にした企画・催しの運営をしている。
- ・ティーンズルームでは、「Teen's voice」というアンケートとその回答の掲示、中学生・高校生による手作りPOPとその本の展示等、利用者と図書館、利用者と利用者のコミュニケーションを図れる工夫をしている。
- ・「学習応援シリーズ」「読書案内シリーズ」といったブックリストを作成し、ティーンズルームに設置している。リスト作成の際には、1つのテーマで 10 冊程度に納める等の工夫をしている。
- ・図書館ホームページの「ティーンズページ」では、特集やブックリスト、パスファインダーを掲載し、そのまま本の予約ができるようにしている。

- ・ていんず情報誌「10代のための本棚」を年4回発行し、区内中学生に配布している。
- ・区内在住・在学の中学生ボランティアグループ「ひきふね図書館おもてなし課」が、図書館をより楽しい場所にするために催しものの企画をしている。ティーンズルームの特集企画、ていんず情報誌でお薦め本の紹介、「勉強・検定対策ノート紹介」の作成、ビブリオバトル&ブックカバーづくり、クリスマス会等。
- ・3階と4階が吹き抜けで自動出納書庫が設置されている。利用者がパソコンで書庫請求すると、2分以内で該当する資料が入っている箱を窓口まで自動で運ぶ。資料が出入りする窓口で、請求のあった資料が出納されたかチェックしている。24万冊収蔵可能で、現在5万冊収蔵している。
- ・2階プロジェクトコーナーで、講演会やボランティアによるイベントを実施している。また、行政情報の発信はこのコーナーを利用している。
- ・予約資料ルームを設置し、利用者自身がネット等で予約した資料を取り出し、貸出手続きを行っている。
- ・こどもとしょかんでは、読み聞かせをするスペースとは別に、多目的ルームがあり、催しもの等に利用している。墨田区内の学校では、調べる学習を積極的に実施していることから、この多目的ルームを利用して、調べる学習の相談会を開催している。また、実際に市内の子どもたちが作成した調べる学習の作品等の貸出も行っている。
- ・墨田区では、選定の際の複本数を減らし、資料を流通しやすくするため、資料の配置が所蔵館方式でなく返却館方式になっている。返却館方式は、例えば、ひきふね図書館で借りた資料が区内の緑図書館に返却されたら、その資料は緑図書館に配架されるというもの。
- ・図書館ボランティアについては、開館の前年度に企画ができるボランティアを育成するために「プロジェクトリーダー養成講座」を開催し、50名の参加があった。現在は、月1回の定例会の中で、浴衣着つけ読書会、ぬいぐるみおとまり会等さまざまなイベントの企画をし、それを運営している。ボランティアの年齢層は幅広い。

以上